



3部門・今年の総括

リーダー部門

ビジネス、社会貢献活動、政治行政など、各分野で優れたリーダーシップを発揮した女性を表彰

組織を率いて大きな成果を上げる女性たちの、さらなる活躍に期待

「今年のリーダーの共通点は優れた「組織人」であること」とリーダー部門審査員の斎藤聖美さん。全国からの看護師派遣の陣頭指揮を執った石井美恵子さん、120人の部下を率いて味の素のR&Dを牽引する野坂千秋さんなど、「組織のリソースをフルに活用し、大きな目標を達成するリーダーが目撃された」。野坂さんや大林組の服部道江さんは、86年の男女雇用機会均等法施行前の入社。組織で活躍する女性のパイオニアとして、実績を上げ、地位を得てきた。「困難に挑む心意気があって初めてリーダーたり得る。一人では成し得ないことを、組織の力で達成する醍醐味を知るリーダーは、さらに成長し、活躍するでしょう」

ヒットメーカー部門

10年秋から11年にかけて企画・開発などに関わってヒットを生み出し、社会に影響を与えた女性を表彰

11年のヒットのキーワードは「絆」震災後、その傾向がより強く

「今年のヒットを紐解く最大のキーワードが「絆」です」とヒットメーカー部門審査員の田中洋さん。「マルモのおきて」をプロデュースした橋本美美さんは、「家族の絆の構築」を軸に据え視聴者から高い支持を得た。森本千絵さんが手がけたCMやポスター、サイトを通じて発信したメッセージも「デザインの中で人と人をつなぐ」という思いが背景にはある。東文恵さんが中心となって開発した「ルルド マッサージクッション」は、自分で消費するためだけでなく大切な人に贈るプレゼント需要を捉えたことがヒットの起爆剤となった。「絆」は、ここ数年のヒットを読み解くキーワードの一つではありますが、東日本大震災を経てその傾向が一層強くなりました」

キャリアクリエイト部門

時代を先取りしながら戦略的に独自のキャリアを切り開き、仕事のスタイルをつくり上げた女性を表彰

核となるキャリアを追求しつつ活躍の舞台は幅広く

今年の審査を振り返り、「自分のキャリアのコアになるものを持ち続け、やりたいことを追求しながら、しがらみがなく活躍の舞台を選ぶ人が目立った」とキャリアクリエイト部門審査員の河野真理子さん。紛争地で活躍する瀬谷ルミ子さんは国連職員、外務省など様々な立場で支援活動を実践。NTTコミュニケーションズの塚本良江さんは、NTT、マイクロソフトとネットビジネスを核に、自分の力が発揮できる組織を選んできた。中国で調査会社を営む安田玲美さんは、調査会社、出版事業と日中をつなぐ事業を次々に展開。「柔軟性を持ち、自分の可能性を試していくことが求められているのではありません」

しかもNTTという大企業が退職者を部門長で迎えるなんてものすごく新しいパターンです。田中 ただし、グループ会社です。IT業界ではまだ活躍する女性が少ないから必要とされたのでしたが、これからさらに期待される方だという気がします。

齋藤 女性は壁に当たって外に出る転職が多いですが、塚本さんはいまもヘッドハントされている。IT業界にあって、外から求められる人材に自分を育ててきたことは素晴らしい。編集部 味の素の野坂千秋さんと大林組の服部道江さんは、80年代前半に入社し、大企業でキャリアを積んできました。河野 服部さんは女性社員が少ないゼネコンの中の、総合職転換第1期生。育休も普及していない時代です。生き残るだけではない時代です。スカイツリー建設現場の副所長に就く実力者で、希少価値中の希少価値です。鳥越 野坂さんが商品開発の陣頭指揮を執る味の素の食品分野の売上高は6000億円余り、連結売上高の50%を占める。これは男女関係なく評価できる。齋藤 野坂さんは研究開発だけでなく上海で社長も務めている、広範囲な能力も持っている点も評価できます。田中 2つの国や文化を行き来する「通文化」も今年の特徴。中国で調査会社などを作った安田玲美さんは文化間を行き来し、ボーダーを超えています。服部さんが建築という男文化に入ったのも通文化の一種ですね。

河野 私は安田さんの情熱に感動しました。仕事の身を問わず、とにかく中国とのかけ橋になりたいという強い思いを貫いた点も新鮮です。鳥越 中国語を勉強するだけでなく、終わる人は多いので、安田さんのように、それまでに中国になかった「調査」という新しい分野でキャリアを切り開いた人のロールモデルは高いですね。河野 アテックスの東文恵さんが開発した「ルルド」は、ロフトのファッショングッズコーナーなどで本場によく見かけました。マッサージ機にしては安い価格帯で売り方も上手でうまくいったな、という印象です。鳥越 この人がいないとできなかったかどうかポイント。テレビの世界はアイデアが勝負なので、じわじわ視聴率を上げて大ヒットした「マルモのおきて」は、プロデューサー・橋本美美さんのアイデア勝ちでしょう。



**ゲスト審査員**  
特定非営利活動法人 JEN  
理事・事務局長  
木山啓子さん  
メーカー勤務を経て94年JENの創設に参加。世界中の紛争地や被災地で支援活動を展開する。05年エイボン功績賞、ウーマンオブザイヤー2006大賞受賞。著書に「誰かのためなら人はがんばれる」(かんき出版)など

- 木山さんのベスト**
1. 塚本良江さん
  2. 野坂千秋さん
  2. 橋本美美さん

**ゲスト審査員**  
ジャーナリスト  
鳥越俊太郎さん  
毎日新聞入社後、テヘラン特派員などを経て「サンデー毎日」編集長に。89年に退社後は、テレビの報道番組の司会などで幅広く活躍。01年楠川スカー殺人事件報道で日本記者クラブ賞受賞。著書に「がん患者」(講談社)など

- 鳥越さんのベスト**
1. 石井美恵子さん
  1. 野坂千秋さん
  1. 橋本美美さん
  1. 服部道江さん



田中洋さん 早い時期から人生を悟っている「若大人」が多いですね。武装解除という専門スキルを磨いて紛争地で活躍している準大賞・瀬谷ルミ子さんは17歳から紛争解決に関心を持ち、その道を進んでいます。齋藤 女性だから、日本人だからと制限を付けて活動を狭める人がいますが、日本とか世界とか意識せずに活躍している受賞者が多いのが印象的です。木山 私は仕事柄、こういう仕事をやる人はたくさん知っていますが、瀬谷さんはDDRとい

う切り口で売り込んだ点で、ある意味「ヒットメーカー」ともいえる(笑)。トレンドをつくり出して流れる力は、社会を変えていく可能性を秘めています。河野 もう1人の準大賞・アイトレクターの森本千絵さんは、震災後のCMやポスターなどで深い思いをアイトの力で訴えていて、どんな分野、どんな仕事でも復興に力を貸せる、という勇気を与えてくれました。田中 広告業は震災後しばらく仕事をなく、この空白期にいか

に力を発揮するかが問われました。震災後ACの広告ばかり流れる中で、著名人の歌のリレーのCMはアビリーングでした。河野 ツイッターやフェイスブックを使ったインターネットサービスを手がけるNTTコミュニケーションズの塚本良江さんは、NTTからマイクロソフトに転職し、今はNTTコミュニケーションズの社員。日本で、

強い思いでキャリアを貫く

**キャリアクリエイト部門 審査員**  
キャリアネットワーク代表取締役会長  
人材育成コンサルタント  
河野真理子さん  
バイオニアグループ入社後、89年同社設立。02年から現職。企業の人材育成やキャリア開発、組織能力向上のコンサルティングを行う。著書に「管理職のためのキャリアアドバイス実践ハンドブック」(共著/日本生産性本部)など

- 河野さんのベスト**
1. 石井美恵子さん
  1. 瀬谷ルミ子さん
  1. 服部道江さん

大賞・準大賞の決め手は？  
今年の特徴は？  
2012 Woman Of the Year

情熱と信念を持って人や組織を巻き込みながら実績を上げる女性が活躍!

被災地支援や復興に尽力した女性たちに注目が集まった11年。一方で、東京スカイツリー建設やSNSなど新規性・話題性の高いフィールドで、リーダーシップを発揮する女性たちの姿も。今年を受賞者の審査過程を詳しくお伝えします



審査員プロフィール

**ヒットメーカー部門 審査員**  
中央大学  
ビジネススクール教授  
田中洋さん  
電通マーケティングディレクター、法政大学経営学部教授、コロンビア大学研究員などを経て08年から現職。数多くのグローバル企業のコンサルティングを経験。著書に「問題解決!マーケティングリサーチ入門」(編著・ダイヤモンド社)など

- 田中さんのベスト**
1. 石井美恵子さん
  2. 野坂千秋さん
  3. 瀬谷ルミ子さん
  3. 服部道江さん

**リーダー部門 審査員**  
ジェイ・ボンド東短証券  
代表取締役社長  
斎藤聖美さん  
日本経済新聞社、ソニーを経てハーバード大学大学院でMBAを取得。モルガンスタンレー投資銀行勤務後、92年に独立。00年、債券のネット取引システムを提供する同社を設立。著書に「そうだ!社長になろう」(文芸春秋)など

- 斎藤さんのベスト**
1. 石井美恵子さん
  2. 服部道江さん
  3. 野坂千秋さん